

クラスのコミュニケーションを活発にし、先生・子どもをもとに育てる新聞教育。

来る8月3日、4日の2日間にわたり、「第50回 全国新聞教育研究大会 東京大会」が開催されます。

大会のテーマは、「心を育て心をつなぐ新聞教育―コミュニケーション力の深化―」。本大会の実行委員長でもあり、長年新聞教育に携わってこられた越田清四郎先生に、新聞教育の意味や現在の課題などについてお話を伺いました。

新聞を通して人間教育を

——新聞教育では何が重要だとお考えですか？

越田 全国新聞教育研究大会は、今回で50回を迎えるわけですが、スタート当初から「新聞をつくること」「言語能力を伸ばすこと」「社会に目を向けさせること」「メディアを理解すること」を追求してきました。

私は、新聞を通して人間教育をするところが、新聞教育の一貫したテーマであり、いちばんの基本だと考えています。しかし、今はこの点を忘れがちになっているように思いますので、まず強調したい点

です。

さらに忘れてはならないのは、メディアとしての新聞という側面であり、批判的にこれを見なくてはならないということです。

第30回大会で初めてNIEが分科会に入り、情報選択能力の育成やマスコミの及ぼす影響がテーマとなりました。私は、同一ニュースでラジオ・テレビ・新聞といったメディアの比較をしました。こうしたメディアを批判的に見ながら、それぞれを理解すること。これが大切なことです。同時に現在の新聞教育では欠落しているところだと考えています。

確かにいま、どこでもパソコンを使っ

たりして立派な新聞をつくってはいます。しかし「つくること」ばかりに目が行っている傾向も否定できません。

自分たちのつくった新聞をメディアとして眺め、その情報のよい点、悪い点など、きちんと理解しているのかどうか、私は疑問なのです。

実際の指導の中で

——新聞づくりでは、最近、個人新聞が目立って多いようですが？

越田 新聞をつくるという点でも、考えなくてはならない、大切なことがあります。それは新聞はそもそも集団でつくるものであるという点です。いちばん価値



があるのは話し合いです。みんなで情報をもむことです。

ところが、個人新聞がとて多くなっている。

個人でつくったほうがラクだからでしょうね。パソコンを一人で扱うのと同じです。ところがグループでつくるとなると、まず話し合いをして進めていかななくてはならない。

確かに話し合いをしながらつくっていくことはたいへんな作業です。しかし、これが重要です。生徒同士の対話が多くなり、コミュニケーションが活発になる。たとえ新聞をつくらなくとも、雑談するだけでもいいと私は言うのですが、私たちの本音を出し合っていく。そこに先

生が入らなくともいいのです。

グループ活動が大切

——具体的な指導の仕方について教えてください。

越田 スクラップ新聞なども個人プレーですが、これでは非常に狭い範囲の作業です。私はみんなで一般紙の切抜きをして寄せ集め、グループでつくらせました。新聞広告をグループで調べさせて、広告だけの新聞をつくらせたこともありました。いずれもクラスに大きなコミュニケーション効果がありました。学習新聞なども個人プレーは止めて、グループでつくらせれば、凄く価値があると思います。新聞をグループでつくったクラスとそうでないクラスを較べると、クラスとしてのまとまりが大きく違ってきます。こんなに違いが出てくるものかなと思うほどです。

時間はかかりますが、新聞づくりを通じて、幅広いコミュニケーションをはかりたいものです。

指導する側も大きく成長

——新聞をつくる教育的効果は？

越田 私は新聞づくりは先生も子どもも成長させると考えています。

生徒は教えられたことは忘れることが多いのですが、自分で考え、つくって発

信したものは記憶に残るものです。これは強調したい点です。新聞をみんなで活動してつくる、発信する。これは確実に子どもたちの記憶に残っているものです。

いまの先生はすぐにマニュアルがほしいと言いますが、子どもたちにはいい新聞を見せて、真似してつくってみよと言えば、おもしろい新聞をつくります。

作文は苦手だから新聞をつくりたくないという先生や子どもがいますが、新聞の文章は作文ではありません。作文では「私は」と言いますが、新聞記事で「私は」はありません。だから作文ではないのです。ここは重要なところです。

新聞をつくれる子どもは客観的にもものごとを見ることができるようになります。逆に新聞づくりによって、「見る目」「観察する目」が身につくとも言えます。

さらに、子どもたちに新聞づくりを指導することによって、先生の生徒理解が深くなります。新聞を見ればそのクラスがどのような状態にあるかもわかるほどです。特にそのクラスに入らなくとも、見えないところが見えてきます。新聞はクラスの鏡と言ってもよいと思います。

だから新聞づくりは教師の力量を高めるといつてもいいのです。ある意味で教師を鍛えてくれる。それが教育現場における新聞づくりだと思います。